

特許庁
実用新案公報実用新案出願公告
昭40-33871
公告 昭40.11.27
(全1頁)

殺虫剤燃蒸器

実願 昭 37-63655
 出願日 昭 37.10.25
 考案者 満田実
 広島市尾長町東山根204
 出願人 株式会社大下回春堂
 東京都千代田区神田美倉町11
 代表者 大下高明
 代理人 弁理士 三原隆

図面の簡単な説明

図面は第1図、第2図は夫々本案品の要部を示す断面図である。

考案の詳細な説明

この実用新案は殺虫剤を均等に持続し、殺虫効果を上るように工夫した殺虫剤燃蒸器に係り図面に示すように電動輪1と調車とをめぐる繊維膜の調帶3を設けて調帶3の一部には殺虫剤の滲潤装置を設け同調帶の他の一部には電熱具4を沿わせて燃蒸部を設けたものである。

尚上記滲潤装置として第11図においては収容器

5へ収容された殺虫剤の中へ調帶3が浸りめぐるようしたものを示し、第2図に於いては殺虫剤収容器6より調帶3へ殺虫剤を点滴するようにしたものと示す。

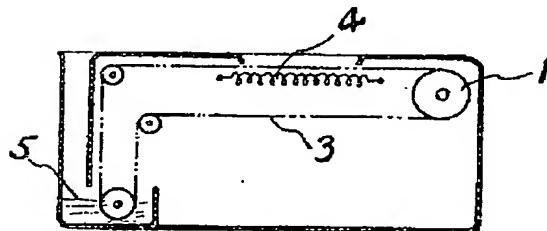
又電動輪1は電力によつて能動的に回動するようにした調車であつて例えば電熱によるバイメタルの伸縮を動力源とし、バイメタルへの電流を断続させてバイメタルに伸縮繰返運動を与え、その繰返伸縮によつてラチエット歯車を繰り送るようにしたものである。

本案は以上のように構成してあるから電動輪1を電気的に駆動する時は一部に於いて殺虫剤の滲潤した繊維膜が遂順に燃蒸部をめぐり、電熱具4によつて加熱され蒸発する。この装置によると調帶の移動を一定速度とすることは普通にでき、その繊維膜に滲潤した液を燃蒸するものであるから消費量の変速が殆どなく均等な蒸発を持続して殺虫剤の有効な消費を行う事ができる。

実用新案登録請求の範囲

図面に示すように、電動輪1と調車2とをめぐる繊維膜の調帶3を設けて調帶3の一部には殺虫剤の滲潤装置を設け、同調帶の他の一部には電熱具4を沿わせて燃蒸部を設けた殺虫剤燃蒸器。

第1図



第2図

